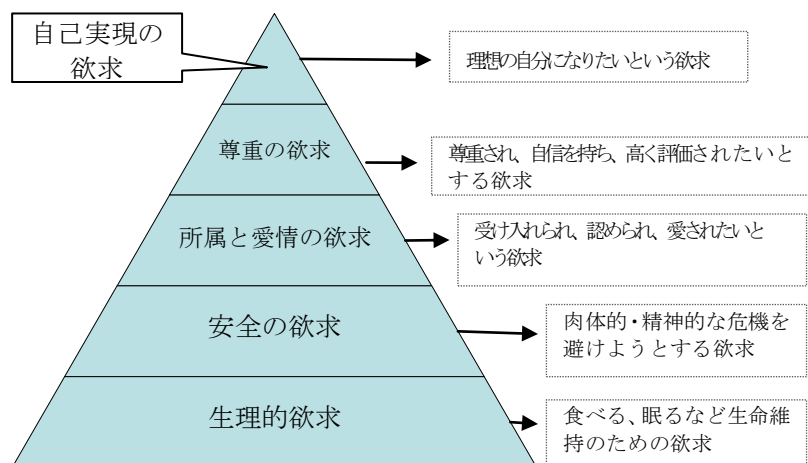


創学舎ニュース

No.271

夢・やりたいこと②

●私は、直情的な人間で、物事を分析したりするのは得意ではない。幸いかな、同僚に恵まれ、心理学・哲学の本も少しは読むようになり、物の見方も教わり、多面的に事象を見る力が少し(ほんの少し)はついたと思う。これは、生きる上で随分と役に立っている。感謝感謝である。で、今回は心理学の話から。



●マズローの「欲求階層論」という仮説がある。図示すると、右のようになる(但し、翻

訳者によって表現の仕方が違うことは了解いただきたい)。

●マズローによれば、人間の欲求は基本的に五つの段階に分かれており、下位構造の欲求ほど動物的で緊急度が高い。ただ、これらが下から順番に充足されるとは限らず、時代や地域や環境によってその欲求の強さも充足度も変わる。例えば、中国四川省の人にとっては生理的欲求と安全の欲求の充足こそが、今は全てかもしれない。イラクにあつては、安全の欲求は強くとも充足されることはなく、しかし所属と愛情の欲求は満たされているという人が少なくないかもしれない。

●この稿は、「夢・やりたいこと」についてはあるが、もう少し寄り道を続ける。「欲求階層論」は、心理学における一つの仮説だが、こうして図示されたものを見て、なるほどと思つてくださる人も多いと思う。経験からいえば、こういう知識を少し手に入れるだけで、自己分析、他者の分析が楽になる。立场上、生徒との面接が多いが、「この生徒は、どのレベルの欲求が満たされずにいるのか」を察知することは欠かせない。そして、実際には、「安全の欲求」や「所属・愛情の欲求」が満たされずにいるケースも少なくない。その場合、表面的に、文系か理系か、志望校をどうするかなど話をふっても進展しないことも多く、時間もかかり慎重な作戦も必要となる。

●さて、「夢」に戻ろう。「夢」は、五つの階層の欲求のいずれか(もしくはそのうちのいくつか)に、その人の個性、資質等が重なつ

て、生まれるものである。一〇年以上前のことだが、父親のDVが母親と子供に向けられている家庭があつた。彼女の最大の夢は、実は安全になること、愛情を掛けてもらうこと、しかし、それは彼女の努力だけで短期に獲得出来る筈もなく、非常に苦しい状況にあつた。当然、尊重の要求、自己実現の要求もあり、ある程度の大学に進むことで、親に喜んでもらいたい、そして自分の人生も切り拓きたいという夢もあつた。だが、ここでも父親のDVが足をひっぱる。父親の怒声ばかりになると、彼女の体は固まるのであつた。

●結局、彼女と話し合つた結果、学校が終わつたら、すぐ塾の自習室にきて一〇時半まではやることを約束させた。そしてこの状況の中でどうすべきか、将来何に気をつけるべきか、そして幸福になるためにどうすべきか、精一杯のことを伝えたが、これでよかったかは分からない。最終的に、まずまずの結果を残し、彼女は進学する。その後の彼女の人生は分からないが、幸いを祈るだけである。

●複数の医者、看護師から直接・間接に聞いた話だが、一部の医者、看護師の中に、患者に対して少し病的にいれこむ人がいるというのである。とにかく尽くし、しかし性急で、患者が自分の思い通りに反応しないと、度を超して不機嫌に(時にはヒステリックに)



なる。「自分はこんなやつにやっていると。」彼の、彼女のこういう言動の根底には、恐らく、「所属と愛情の欲求」の不充足が強くあり、その代償として「尊重の欲求」が突出した形

で出てくるのだ。あこがれの職業として選んだはずだが、それは本当によかつたのか。こういう例は、福祉の現場にも多い。本当に「夢」とは何だろう。一体「やりたいこと」とは何だろう。

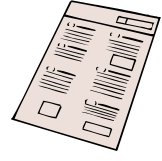
●因みに、今あげた例は保護者にとって他人事ではないかもしれない。「こんなにやっていると。」のセリフが日常となつていいる方も少なからずいらっしゃるのでは?(以下次号)
(小林(健))

80の力

これからの時期、中学生は部活の大会やコンクール、さらに期末試験も加わり、特に忙しくなる。

こんな経験をしたことはないだろうか。今回は、今までで一番大きな大会やコンクールだからしっかり準備していこうと思ひ、たくさん練習した時に限って、力を発揮することができなかったという経験。私は、小学生の頃の少年野球でいつもそのパターンだった。チームメイトにも恵まれ強いチームとなり、大きな大会に出場する機会が多くなつていった。大きな大会ともなるとそこで活躍するために、気持ちも高揚し、いつもはあまりしない練習をたくさんしてしまつていった。そして、気合いを入れて大会を迎えるとチームは勝つものの、練習の甲斐なく個人成績は目覚ましいものが出ないで終わる。しかし、大会が終わる次の週に練習試合が組まれて、やつ

てみるといつもよりも打球は飛ばし、ボールは速く投げられた。なぜ、大会当日にこれだけの力が出せなかったのかと後悔したものだ。振り返ると、大きな大会の時には何とかしたいという気持ちから、100の力を出そうとして肩に力が入ってしまい、うまくいかなかった。しかし、練習試合になれば80の力でよしと思うので、心身ともにリラックスしてそれ以上の力を発揮することができる。自分の力を最大限に発揮するには、練習の中で自分が出せる力を把握し、調整して大会やコンクールに臨むのが大切である。特に最後の大会を迎える中3生には、今までの3年間で培ってきた力をしっかりと発揮してもらいたい。



同じようなことが、勉強の面でもいえる。定期試験の目標の立て方だ。目標を立てる際に、周りに影響されてしまい、自分では鼻からあきらめている点数を目標としていないだろうか。100点を狙いについて結果80点で落ち込むのと、80点を狙って90点取れた時では、自信の付き方が違う。例えば、前回が60点だったからケアレスミスしてしまった分を上乗せして、80点を目標にすると気持ちも楽になる。一番良いのはちよつと背伸びをして届くくらいの点数が達成しやすいし、達成した喜びも味わえる。目標点を達成すると苦手科目でも自信がつくし、そのあとの勉強にも身が入る。もうすぐ期末試験という人もいれば、終わったという人もいると思う。終わってうまくいかなかったという人はもう一度目標について見直して、これからという人は届く可能性がある目標を立ててみよう。何でもうまくいくときといかないときがある。うまくいかないときこそが最大のチャンスととらえ、うまくいくようにするためにどうすればよいか考えてみよう。夏は、自分を変えていく大きなチャンスでもある。今回、何かでうまくいかなかった人は、ちよつと背伸びした目標を立てて夏休みを迎えてみよう。目標達成後には、少し成長した自分に出会えるはず！

一度目標について見直して、これからという人は届く可能性がある目標を立ててみよう。何でもうまくいくときといかないときがある。うまくいかないときこそが最大のチャンスととらえ、うまくいくようにするためにどうすればよいか考えてみよう。夏は、自分を変えていく大きなチャンスでもある。今回、何かでうまくいかなかった人は、ちよつと背伸びした目標を立てて夏休みを迎えてみよう。目標達成後には、少し成長した自分に出会えるはず！

(小林(英))

犬の十戒

これをご覧になっている皆さんは『犬の十戒』という詩をご存知だろうか。まずはそれを書き出すので読んでいただきたい。

犬の十戒

- ① 私の寿命は、10年。長ければ15年。何があっても最後まで、あなたのそばにいてももらえますか。私を飼う前に、どうかそのことをよく考えてください。
- ② あなたが私に望んでいることを、ちゃんと分かるようになるまで少し時間をください。
- ③ 私を信頼して下さい・・・それが何より嬉しいのです。
- ④ 私のことをずっと叱り続けたり、罰として閉じ込めたりしないで下さい。あなたには仕事や楽しみもあるし、友達もいるけれど私には・・・あなたしかいないの

です。

- ⑤ 時には私に話しかけて下さい。たとえば、あなたの話す言葉はわからなくても、あなたの声を聞けば、私に何を言っているのか、分かるのです。
- ⑥ 私のことをいつもどんな風に扱っているか、考えてみてください。あなたがしてくれたことを、私は決して忘れません。
- ⑦ 私を叩く前に思い出して下さい。私には、あなたの手の骨など簡単に噛み砕ける歯があるけれど、決してあなたを噛まないようにしているということを。
- ⑧ 言うことをきかないとか、手におえないとか、怠け者だと叱る前にそうさせてしまった原因が無かったか、思い起こしてください。ちゃんとした食事をさせてもらっていたでしょうか。太陽が照りつけている中に、長い間放っておかれたことはなかったでしょうか。老いた私の心臓が弱っているせいで、動けないのかもしれない。
- ⑨ 私が年老いても、どうか世話をして下さい。私達はお互いに、同じように歳をとるので。
- ⑩ 最期のお別れの時には、どうか私のそばにいてください。「辛くて見ていられない」とか「立ち会いたくない」とか、そんなこと言わないでほしい。あなたがそばにいてくれるなら、私はどんなことも安らかに受け入れます。そして、どうか忘れないで、私がいつまでもあなたを愛していることを。

▲▼▲継続希望の方へ▲▼▲

- ▶ 卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶ 在籍していた教室までご連絡下さい。

創学舎の本

■愛の壁■

—お父さんお母さんあなたの愛の供ひご願ひていますか—
著者：小林 憲右
2006年5月1日発行(1,500円税込)

新星堂他全国書店にて
好評発売中!

この詩に私が出会ったのは今から1年ほど前だった。あまり感動しない自分が、いたく感動したことを憶えている。その頃の私は、チロちゃん(♀・15歳・シェットランドシープドック)と一緒に住んでいた。チロちゃんは今もう年で老犬だったせいもあつたかもしれない。もつと早くにこの詩に出会って良かったと少し後悔した。

この詩は犬だけではなく、猫にだって、鳥にだって、ペットであればほぼどんな動物にでも当てはまるだろう。残念ながら最近是不幸な動物が増えている。動物に愛情を持って接する人が増えてほしい。だから、是非ともこれから動物を飼う方、そして現在動物を飼っている方に知っていただきたい詩である。

チロちゃんはいつい半年ほど前に亡くなった。16年間一緒に暮らしたこととなる。チロちゃんと一緒に過ごさせて私はたくさん幸せをもらうことができた。しかし、チロちゃんは今うちに来て幸せだったのだろうか。ふと、そんなふうに考えてしまう。(浅野)

